



帯広刑務所 Penal Institution

沿革

- 明治26年 3月 北海道集治監釧路分監帯広外役所として開設
- 明治28年 4月 北海道集治監十勝分監として開庁
- 明治36年 4月 集治監制廃止により十勝監獄と改称
- 昭和14年11月 帯広少年刑務所として独立
- 昭和18年 8月 官制改正により帯広刑務所と改称
- 昭和51年10月 新施設完成し現在地へ移転
- 昭和56年 6月 別府農場開設
- 平成19年 4月 釧路刑務所が帯広刑務所の所管となる

施設の特徴

【カラマツ材を利用した家具作り】

帯広刑務所がある十勝地方は「カラマツ王国」と言われるほどカラマツが多く、その有効利用に力を入れている地域であり、当所においても、道産のカラマツ材を利用した各種家具作りに取り組んでいます。



▲カラマツ材を利用した刑務所作業製品

【農作物の栽培】

当所の農場では、白菜、キャベツ、たまねぎ、トウモロコシなどの農作物を受刑者が栽培しています。収穫した野菜は、近隣のスーパーマーケット等に卸し、委託販売を行ってもらうなどして受刑者の農業に関する意欲の喚起を図っています。

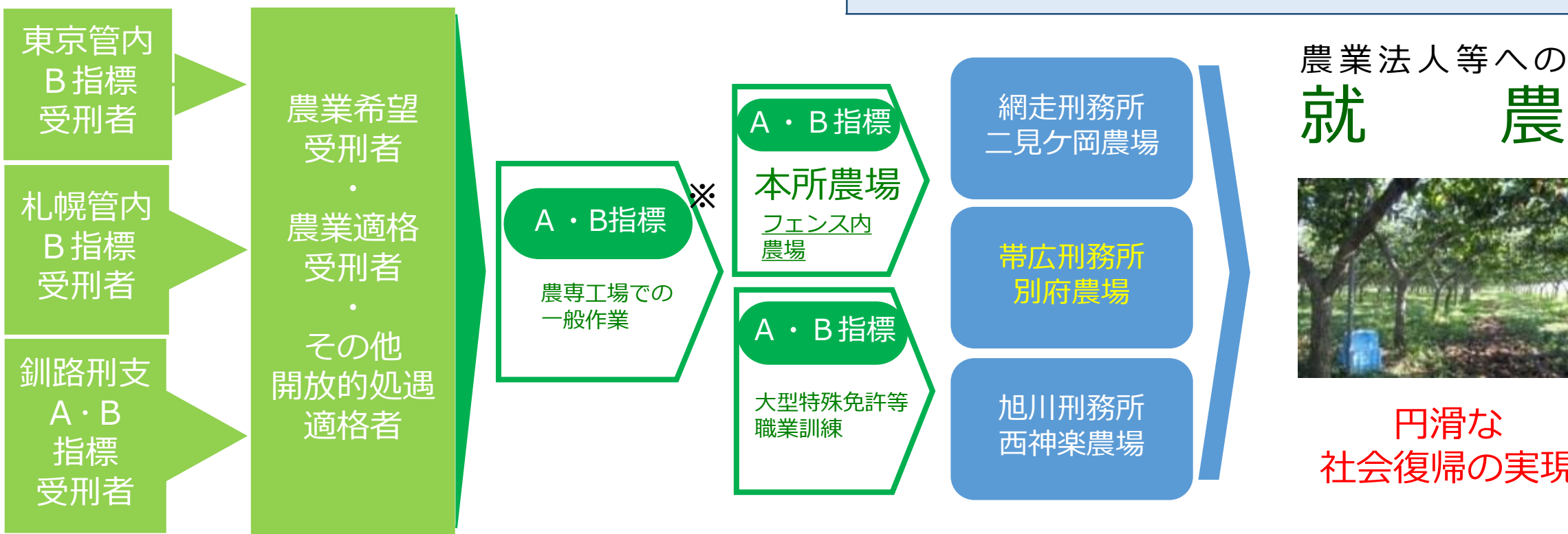


▲別府農場で収穫した野菜

【道東所在刑事施設による農業を活用した段階的開放処遇モデル】

令和元年度から受刑者を段階的に開放的な処遇に移行させて、農業に関する知識及び技術を習得させ、農業の担い手を育成しています。

最終段階では網走刑務所及び旭川刑務所と連携し、出所者を就農させて円滑な社会復帰の実現を目指しています。



帯広刑務所の概要

所在地 : 北海道帯広市
 収容定員 : 502名
 収容対象 : 男子受刑者
 (主に刑期が10年未満で、犯罪傾向の進んでいる者)
 規模 : 敷地面積 217,680㎡
 うち別府農場 68,760㎡

地域と連携した取組・地域貢献

【帯広にしかない「ばんえい十勝」とコラボ】

世界で唯一、帯広でしか行われていない「ばんえい競馬」。トラクターがない時代に活躍した農耕馬を競走させたことが始まりで、北海道開拓の歴史を現在に残す貴重な地域文化となっています。

帯広刑務所では、特定非営利活動法人「とかち馬文化を支える会」を通じて「ばんえい十勝」に登録している競走馬が使用した蹄鉄を磨き直して飾りにしたオフィシャルグッズやマグネット、サンドブラスト加工のグラス等を製作するなど、地域文化の継承の一助を担っています。



▲ばんえい競走馬の蹄鉄の飾り



▲ガラスのマグネット



▲サンドブラスト加工のばんえいグラス

所在地

帯広刑務所 〒089-1192
 北海道帯広市別府町南13-33
 ☎ 0155-48-7111

※ A 指標・・・犯罪傾向の進んでいない受刑者
 B 指標・・・犯罪傾向の進んでいる受刑者
 受刑者の属性や犯罪傾向等によって、收容される刑事施設が定まる。